



南木曾の歴史肌で感じる

蘇南高

南木曾町の蘇南高校1年生48人は12日、今月で大正11（1922）年の完成から100周年を迎える地元の桃介橋について学ぶ現地学習をした。近くの福沢桃介記念館と合わせて見て回り、身近にある歴史を肌で感じた。

学校で小川幸司校長から、実業家の福沢桃介が水力発電所建設用の資材を運ぶため、木曾川に架けたのが桃介橋である………完成100周年を迎える桃介橋などを見て回り地域の歴史に理解を深める生徒

1年生 桃介橋の現地学習

ことなどを聞いた。6班に分かれて学校から歩いて桃介橋に行き、その大きさや歴史などをあらためて確認した。学校が作ったクイズを解く形で記念館を見ていき、福沢が現地を拠点に女性のビジネスパートナーと事業を進めるなど先進的な考えを持った人物だったことも学んだ。

青木仁風君（15）は「地域にあった歴史に実感が湧いたし、より深く知りたい気持ちになった」と話していた。

1年生は南木曾の自然や歴史を自分たちで調べ、行き先を企画して巡る「ふるさと研修旅行」を11月に予定し、その導入として桃介橋を学んだ。（大嵩崎慧）